

令和6年度 教員採用試験合格体験記



「教員採用試験合格者発表会」の様子（R6. 11. 15）

令和7年1月

金沢学院大学教育学部教育学科

目 次

1	巻頭言	教育学部教育学科 多田 孝志 学部長	1
2	目次		
3	合格体験記		
(1)	4年次合格者（※敬称略。50音順に掲載）		
	岩本麻里（石川県合格）		3
	上田晴空（石川県・新潟県合格）		4
	上野悠斗（石川県・横浜市合格）		5
	潟見輝人（新潟県・川崎市合格）		6
	萱間里穂（新潟県合格）		7
	川島正太（新潟県・東京都合格）		8
	小林愛唯（富山県合格）		9
	坂口陽向（新潟県合格）		10
	坂本彩心（石川県合格）		11
	神保柊太（山梨県合格）		12
	新明愛綾（石川県合格）		13
	高木悠貴（石川県・新潟県・横浜市合格）		14
	高橋向日葵（新潟県合格）		15
	高本乃愛（石川県合格）		16
	竹内愛賀（新潟県合格）		17
	田中智世（富山県合格）		18
	谷口空（富山県合格）		19
	田巻真帆（新潟県合格）		20
	中郷摩耶（石川県合格）		21
	寺田陽（石川県・横浜市合格）		22
	寺林美結（石川県合格）		23
	中平夏葵（富山県合格）		24
	西野祐生（富山県合格）		25
	野村美由紀（富山県合格）		26
	藤見洋子（石川県合格）		27
	細川侑真（富山県・新潟県合格）		28
	干場理央（新潟県合格）		29
	本間伊織梨（新潟県合格）		30
	前田峻佑（石川県・富山県・横浜市合格）		31
	前田優美花（静岡市合格）		32
	松原大翔（富山県合格）		33
	丸山のぞみ（石川県・新潟県合格）		34
	山崎あみ（石川県合格）		35
	和田珠希（東京都合格）		36
	西村鳳泉（私立小学校合格）		37
	春日結翔（私立小学校合格）		38
(2)	3年次合格者 石橋飛佳（新潟県合格）		39
5	編集後記		

「教員採用試験合格体験記」

氏名 岩本 麻里

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

合格自治体名：石川県

教員を目指した時期：中学２年の頃

勉強を始めた時期：大学３年の春休み（その前は、少しずつ問題を解く程度でした。）

2 いつからどのような勉強を始めたか

大学１年～３年の春休み前までは、たまに自分の得意な教科の問題を解く程度です。
大学３年の春休みから本格的に勉強を始めました。大学３年の春休みは教育法規を集中的に取り組み、大学４年では青本の教育法規の問題を解きつつ、小学校全科に多くの時間を費やしました。教育実習後は、小学校全科の歴史をメインに取り組みました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

１番は、ゼミの仲間や同じ教育学科の仲間とともに、切磋琢磨しながら教員採用試験の２次試験まで走り切ることができたからだと思います。分からない問題を教え合ったり、模擬授業や面接の練習を一緒にやったりと、一人で教員採用試験の対策をしていたら挫折していたと思いますが、多くの仲間に支えられ、どんなに辛いとき、苦しいときでも前を向いて取り組みました。仲間と勉強することの楽しさを再確認することができました。合格できたのは、仲間から日々かけて頂いた「一緒に頑張ろう！」という一声でした。

仲間だけでなく、教育学科の先生方の手厚い指導も、合格できた大きな理由の１つです。特に山口先生からは、模擬授業の練習で、自分の細かいところまで見て、視線や立ち位置、具体的な子供への投げかけの仕方などを教えて頂きました。学科の先生方からも２次試験の前日まで面接や模擬授業の指導をしてくださったおかげで、当日も試験を楽しみながら、そして、自分らしく、思いを伝えることができました。試験が近くなってきたときに、「岩本なら大丈夫！」この一言で自分自身に自信を持つことができました。本当にありがとうございました。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 上田 晴空

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

私が合格した自治体は石川県と新潟県です。石川県には推薦で受験し、新潟県には一般受験で受験しました。教員という仕事を夢見るようになったのは小学校六年生のころで、小学校教員を本格的に目指し始めたのは大学二年生の後期です。なぜ大学二年生のころから本格的に目指し始めたかということ金沢学院大学では教員採用試験を受ける際に推薦の枠をもらえることを知ったことと、推薦の枠に入るために必要な成績に手が届くラインにいたからです。

2 いつからどのような勉強を始めたか

本格的に勉強を始めたのは先輩の合格体験記を聞いた三年生の冬のころでした。自分の苦手な数学を筆頭に暗記科目の社会と理科をこなしていくことから始めて、慣れたら教職教養などに手を出しました。基本的には過去問からどのような勉強が有効でどんな勉強をすればいいのかを分析するとともに、自分に何が足りないのかを把握することに重点を置きました。私は石川県には結局推薦で合格したのですが、推薦の枠を狙い大学の授業に力を入れ始めたのは二年生の前期からです。GPA が3.0以上という明確な条件があったため、少しでも合格する確率を上げるために推薦の獲得を目指していました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

私が合格できた理由としては、早い段階で推薦を頭に入れて学校生活を送ることができたことだと思います。また、早くから推薦を考えただけとしてはどうしても教員になりたいという強い意志があったからです。自分の夢を達成するための強い意志があると、少しの可能性にも手をのばそうと思うと考えます。私は今まで自分のそばにあるチャンスに手をのばすことができなかったけど、自分の夢のために推薦という厳しい条件に対して手をのばしつかみ取れたので、今自分が本当に教員になりたいのかを見直し、なりたいなら今できることを着実にやっていくことが大切だと思います。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 上野 悠斗

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

- ・〇横浜市、石川県
- ・高校３年生の進路相談時

2 いつからどのような勉強を始めたか

- ・大学３年の冬の合格者体験談後に焦りを感じて、勉強を始めた。

具体的に筆記試験対策では、横浜市と石川県の全科・一般教養の青本、全国用の全科の赤本・青本を活用して勉強に取り組んだ。どの参考書も３周は必ず行った。３周以上しても解けなかった問題には付箋を貼り、隙間時間に見返すようにして徹底的に追い込んだ。面接練習では、単語帳に質問と回答を書いて何度も読んだり、友達や先生と練習し合ったりしてどんどん成長することができた。模擬授業では、自分の授業の形を覚えて、それを与えられた課題に当てはめて取り組んでいた。例えば、算数では最初に振り返り、次に日付け、そこから問題に入るといった形を行った。模擬授業でも、友達や先生と練習し合うことで色々な意見やアドバイスをもらうことで成長できた。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

・私が教員採用試験に合格できたのは、「環境」と「目的」にあると考えている。まず、「環境」では大学の仲間や先生方が絶対に合格するという素晴らしい雰囲気をつくってくれたことで、自分にも火をつけ楽しく勉強することができた。どうしてもやる気が出ない日でも、とりあえず学校に行くことで自然と勉強に集中することができた。

次に、「目的」では絶対に教員採用試験に合格して教員になり、自分と関わってくれた子どもたちを幸せにしたいという目的が常にあった。この目的がブレずに自分の中にあっただけ継続的に勉強に取り組むことができた。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 湯見 輝人

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

＜合格自治体＞

川崎市（神奈川県）、新潟県

＜教師を目指した時期＞

大学一年生の頃です。その時期、自分が将来何をしたいかを具体的に思い描くことができず、悩んでいました。そんな時、今まで続けてきた部活動（サッカー）が学校生活を振り返り、自分の長所が努力することと継続することであることに気づき、教師に向いていると考え、教師を目指しました。

2 いつからどのような勉強を始めたか

自分が勉強を始めたのは、大学3年生の11月頃です。部活動の練習が朝早いこともあり、夜に時間を確保することが難しく、勉強する時間を少しでも取るように心がけました。具体的には、平日は、30～60分程しました。土日祝日は、1～2時間程しました。時間が取れる日は、その時間よりも多くしました。

4年生になると、講義の時間も少なかったため、大学の空きコマを活用し、研究室や2号館8階のラウンジや学習室などで勉強をして、少しでも多く勉強しました。勉強時間は、平日は、1～2時間程しました。土日祝日は、2～3時間程しました。教育実習期間中は、新しい勉強をすることが難しかったので、復習をメインで取り組みました。平日は、30分程し、土日は、1時間程しました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

自分が合格できた理由は、三つあると思います。

一つ目は、継続できたことと諦めずに取り組むことだと思っています。部活動と勉強の両立はとても難しく、心が折れそうな時が何度もありました。そんな時、部活動での厳しい練習の日々を思い出し、諦めずに勉強に取り組んだことが合格に繋がったと思います。また、継続することで確実に力がついたことも合格に繋がったきっかけだと思っています。

二つ目は、教育学科の仲間と協力して勉強したことだと思っています。一人で勉強をしていると限界が来る時があります。そんな時、教育学科の仲間と勉強することで分からないことを教え合ったり、面接の練習したことで力がつき、合格に繋がったと思っています。

三つ目は、悩み事はすぐに教育学科の先生方に相談しに行ったことだと思っています。勉強していると悩み事が出てくることがあります。そんな時、先生方に相談しに行くことで、悩み事を解決でき、すっきりして勉強できたことも合格できた理由だと思います。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 萱間 里穂

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

合格自治体 新潟県

教員を目指した時期

教員を目指すようになったのは、高校２年生の秋頃だったと思う。進路選択と大学受験を本格的に考えるようになり、子どもに関わる職に就きたいと思った。その中で、小学校教諭になりたいと考えるようになった。

勉強を始めた時期については、元々石川県を本命に考えており、石川県用の勉強を始めたのは大学３年生の秋頃からである。

新潟県用の勉強は大学４年生の９月頃から開始した。

2 いつからどのような勉強を始めたか

元々は地元である石川県の教採を受験するための勉強をしていた。大学３年生の秋頃から石川県の過去問を中心に解いた。しかし、面接で過度な緊張から思うように話すことができず、不採用となってしまった。

その後、教採担当の先生からのメールに「追加募集を行う自治体がある」と書いてあるのを見て、新潟県も追加募集を行うと知り、秋選考を受験するための勉強を９月から始めた。新潟県の筆記試験は国語と数学だけであるため、苦手意識のある数学を重点的に復習した。協同出版の新潟県の過去問を重点的に解いた。また、新潟県教採試験を夏に合格した友人から夏の試験問題を貰い、アドバイスを受けながら勉強した。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

教採担当の先生方が、私の面接練習に時間を割いてくださったことが大きい。初めはあまり声を張ることができていなかったが、先生方のご指導により大きくはっきりした声で話せるようになった。ただ、先生方からは「絶対に泣くな」と言われていたが、結局泣いてしまった。それでも先生方からのご助言を思い出し、試験官からの質問には詰まらずに答え、最後まで堂々としていようと努めた。結果、合格することができた。緊張で泣いてしまう人はいると思うが、その時に自分の気持ちを立て直せるかどうかが大切だと思う。

夢を叶えるために行動した結果が理想通りにならないこともある。しかし、夢を叶える手段が変わっても、夢を目指し続ければ、意外と何とかなる。大学受験と採用試験の経験から、私はそう感じている。後輩の皆さん、自分の夢を大事に。

私は、一人一人の心にあたたかく寄り添うことができる教員になりたい。子ども達が抱える不安や悩みを少しでも解消することができるよう、感謝の心をもって、これからも精進したい。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 川島 正大

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等） 新潟県、東京都 小学校3年生 大学2年生の後期
2 いつからどのような勉強を始めたか ◇大学2年生の後期 ・自治体調べ 自分がどの自治体で教員になりたいのかを早めに決めておいた方がよい。 ・自治体のオンライン説明会、現地に足を運んで自治体のよさを知る ◇大学3年生 ・自治体調べ 受験自治体の傾向を調べる。 新潟県の教職教養→穴埋め問題が多い。 東京都の教職教養→穴埋め問題が無い。適切なものを選び、誤ったものを選べと言った選択式であって理解していないと点数が取れない。 ・教職教養、小学校全科 教職志望の学生は0からスタートの科目。 ◇大学4年生 ・自治体調べ 教育目標や施策、教師像を調べる→面接に繋がる。 ・教職教養、小学校全科、小論文、面接
3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」） ① 集団で教採対策を行うこと。 ② リフレッシュを必ず入れる。（旅行やライブに行くなど） ③ 面接練習をゼミ担と飽きるまでやる。 ④ 自治体の調査を怠ることなく隅から隅まで施策を調べて頭のなかに入れる。 ⑤ 本気で教員になりたいと思っているかどうかで合否が分かれる

「教員採用試験合格体験記」

氏名 小林 愛唯

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

合格した自治体名：富山県

教員を目指した時期：高校3年生

高校3年生の時に付き添いで行ったオープンキャンパスで教員として働いている人の話を聞いた。先生の体験に憧れ教員を目指した。

勉強を始めた時期：大学4年時の春頃

2 いつからどのような勉強を始めたか

4年生の春休み頃から富山県の過去問を解き始めた。（ノート1冊分程度）

過去問を解くことで自分の苦手分野・出題傾向を知ったり、時間配分を掴んだりした。（最新～2015年程度まで）

苦手なところは青本で振り返り、定着に繋がった。付箋に公式をまとめておくと後で振り返りやすい。

集団討論は、5月頃から富山県を受験する人と集まって繰り返し練習を行った。自分の意見を言うことが苦手な人は、人の意見に共感したり付け足したりすることから始めるとよい。

テーマは幅広いので、過去問や時事ニュースを取り入れた問題を作成し、練習した。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

絶対に合格するという強い気持ちを持ち、最後まで諦めずに取り組んだからだと思う。3年次受験、推薦試験も挑戦したがどちらも不合格となってしまった。次で必ず合格するという気持ちを強く持ち、諦めず勉強したことが合格に繋がったと思う。

また、ともに受験に取り組んだ友達の支えも合格に繋がったと思う。試験日が近づくにつれ、焦りや不安も大きくなっていった。その時同じ富山県を受験する友達が励ましてくれたことが大きな支えとなった。

勉強だけでなく心の支えとなってくれた友達の存在も合格できた理由と考える。勉強に行き詰ったときは、リフレッシュをすることも大事だと感じた。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 坂口 陽向

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

新潟県
高校2年生
大学3年後期

2 いつからどのような勉強を始めたか

大学3年の後期から本格的に勉強を始めました。最初は受験する自治体の試験科目を調べます。その後、購入した時事通信社の赤本、青本を活用し、問題をひたすらに解いていきました。最初に解いてみるとわかりますが、中学、高校からの積み重ねもあり、すべての問題ができないというわけではありませんでした。なので、明確となった自分ができないことをつぶしていく作業です。わからない部分はやる気になりませんが、何とかやる気になるメンタルコントロールが必要です。

二次対策は、先生との面接練習です。自分は面接試験しかなかったので、ひたすら面接と向き合うことができました。最後は「気持ち」だと思います。「先生になりたい！」という気持ちを膨らませて試験に臨むことが大切です。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

自分が合格できたのは、家族や友達など、周りの人の精神的な支えがあったからだと思っています。自分が大学で勉強しているときも常に隣には友達がいました。全然しゃべっていいと思います。それで気持ちが楽になるときもありました。試験の直前は教育実習があるため、地元にいる人が多いと思います。その時はあまり勉強はできませんでしたが、実家の家族の温かさが自分の心の安定につなげてくれたと感じています。不安になったら周りを見渡してみてください。当たり前ですがそこにはあります。もちろん勉強をしないと合格はできないと思いますが、その勉強の根本にあるのは自分に関わる全ての人の支えがあってのこと、常に感謝の気持ちを忘れず、自分の夢に向かって突き進むだけ。そうすれば、おのずと合格はついてくると思います。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 坂本 彩心

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

合格自治体：石川県、新潟県

教員を目指した時期：高校２年生

2 いつからどのような勉強を始めたか

何時間勉強したかなどは覚えていませんので、勉強した内容を記します。

○大学２年生後半～：筆記試験勉強（赤本、青本）

青本の問題をする→間違えた問題の理解を赤本でする を繰り返し行う。

○大学３年生～：筆記試験勉強（自治体過去問）

石川県過去問の冊子の問題を解き、自分の苦手分野を知る。赤本などの解説を見て理解を深める。筆記対策はひたすら数をこなすのが大事だと思いますが、ただ解いていくよりも、過去問や青本などの問題集を解いた後に自分が間違えた問題や苦手な分野に注力して６～７割程度解けるようになっていくのが大事だと感じました。複数受験を考えていたので、第２候補だった新潟県の問題は、教職センター講座などで配布される過去問や、先生に直接貰いに行く事をしました。

○2024年３月頃～７月末頃のゼミの時間：面接練習

私が特に力を入れたのは面接練習です。

過去の面接で実際にされた質問を記した冊子（教職センター講座で配布された物）から、質問に対する自分の回答を Word など書き出し、ゼミの時間に先生に見ていただきながら内容の修正や答え方、態度や姿勢などを直していく。（奥泉ゼミでは撮影しながら行いました。）ゼミ生の意見を聞くことと、後から自分の面接の様子を見返すことを通して次の面接練習の時間に直せるようにする。これをゼミの時間に何度も行いました。石川県の場合、インターネット上に過去行われた面接の質問内容が記されているサイトもあったので、それを自分の面接対策シートに取り入れて回答できるよう対策しました。最近の教育時事についての関心も大事なので、ネットで調べたり、用語と意味を覚えたりしてイメージを固めておくことが大事だったかと思っています。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

私は推薦枠をいただいて、試験に臨み合格することが出来ました。３年次受験も行い、その時は落ちてしまいましたが、試験会場の雰囲気慣れることは出来たので自分にとっては収穫のあった機会でもありました。そのおかげで４年次の面接ではあまり緊張せずに受け答えが出来たことや、新潟での筆記及び面接でも落ち着いて試験に臨むことが出来ました。もちろん、普段の面接練習や筆記対策をしていたことも重要だとは思いますが、石川県では特に模擬授業もあるので、常に授業のイメージをしていたり、教職センター講座や師範塾での練習の一回一回を学びにつなげられるよう取り組む意識を持っていたと思います。それらを通して、実際の試験では堂々とした態度で臨めたこと、自己認識をして、不足を補うことが出来たことが合格に大きく関わったのだと感じます。

また、教育実習で実際に子どもたちの様子を知り、関わり方や研究授業を通した学びを得られたことも重要だったと思います。実際に、面接時の質問には教育実習を通して得た学びなどを問われたりもしました。教員採用試験に臨むまでの、毎日の積み重ねが合格を得るための大事な要素であると思います。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 神保 柊太

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

まず私は令和6年度の学科生で一番ギリギリで教員採用試験に合格しました。そんな私の体験の中から反面教師にするべき点と、合格できた理由を書いて後輩たちが役立ててくれることを願っています。

私が最終的に合格した自治体は山梨県で、実家のある長野県と隣接しており、親戚もいるので何度も訪れている県だったので志望しました。

教員を目指した時期は高校2年生の頃に、児童館のボランティアの経験から、自分自身が子どもに勉強を教えることを通してそれが楽しく思えたからです。

勉強を本格的に始めた時期は2年生の後期頃からで、筆記試験よりも総合的には面接や模擬授業に力を入れていました。

2 いつからどのような勉強を始めたか

2年生後期頃から、教員採用試験筆記試験の一般教養・教職教養などの問題集を解き始めるといった勉強を始めましたが、正直その頃の私はサークル活動に打ち込んでおり、あまり筆記試験の勉強はしていませんでした。その代わりに、所属していた演劇部でコミュニケーション能力、表現力を磨いており、その成果で面接や模擬授業で物怖じせずに自信を表現できるようになりました。

実際面接時は、難しい質問をされても自分の頭の中で質問を整理するための時間を作るために動揺せずに冷静に質問の確認や聞き返しを行ったり、その自治体の志望動機の中に一つぐらいジョークを入れて余裕を見せたりなどができました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

正直、一次試験の筆記試験では山梨県の専門的な内容の勉強をしなかったのが本当にギリギリで通過しました。そんな自分が点数を稼げたのは、面接や模擬授業において自分を最大限に表現することが出来たからだと考えています。コミュニケーション能力や表現力、私は演劇の中でこの力を磨いてきましたが、他にも他者と積極的に関わったり、ボランティアなどで子どもと接する機会を増やす、先生方に面接や模擬授業の練習を見ていただくなど様々な方法で伸ばしていくことができると考えています。私が不十分な対策の中で試験に挑んだ部分は反面教師にして、表現力を最大限発揮して面接や模擬授業に挑んだことは参考にしてくださいと幸いです。

最後に、中学校英語免許の加点申請書類は余裕を持って取得しましょう、私は不備があってそれで加点点数を10点逃しています。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 新明 愛綾

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

この度、私は石川県教員採用試験を受験し、小学校教員として合格をいただきました。合格できたのは、教育学科の先生方の指導と、仲間の応援のおかげであり、心から感謝しています。

私が教員を志望するようになったのは高校３年生の時で、子どもが好きなことや小学生時代に出会った恩師のような教員になりたいと思うようになりました。大学では、学校ボランティアや教育実習を通じて子どもたちとの関わりを深め、教員になる意志をさらに強固なものにしました。

2 いつからどのような勉強を始めたか

私は教員採用試験の一次試験に向けて、３年後期の定期試験終了後から勉強を始め、３月末の模擬試験に向けて小学校全科の青本を２周、教職教養を一通り勉強しました。４月からはバイトには一切出ずに、大学の授業とともに採用試験勉強を１日４時間以上勉強を続けました。全科青本を２周、東アカを２周、過去問を４周し、自信をもって一次試験に臨むことができました。

一次試験後は、すぐに二次試験対策に取り組み、面接の一貫性を意識して自分の「教師観」「児童観」「学級観」をもとに過去問に取り組み、模擬面接や模擬授業で練習を重ねました。友達に試験官役をお願いし、５０分間の集中力を保つための練習を行い、最初は恥ずかしさがありましたが、仲間の合格のためにお互いを支え合い、成長を感じながら自信を持つことができました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

私が合格できたのは、全力で支えてくれた先生方と同じ志を持つ仲間たちのおかげです。多くの先生方から指導を受け、特に二次試験の面接対策では、自分の教師観を明確にし、教員になりたいという意志を言葉と表情で表現できる力を身につけました。さらに、志を共にする仲間たちが大きな支えとなり、試験勉強を通じて互いに刺激し合いながら成長しました。２号館８階のロビーでは、教え合いや不安を共有する姿が印象に残っています。また、面接官役を友達にお願いするなど、共に目標を持つことで、効果的な学習ができました。お互いに励まし合いながら支援することで、長い受験期を乗り越える力を得ることができました。この経験から、夢を実現するためには仲間の存在が不可欠であると強く実感し、その素晴らしい仲間に出会えたことに深く感謝しています。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 高木悠貴

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

石川県、新潟県、横浜市に合格

教員になりたいと思ったきっかけは小学校 6 年生の頃の担任の先生がきっかけです。その先生は児童と深く関わり一人一人を理解してくれるとても良い先生でした。僕が友達とけんかをしてしまった際に、その先生はお互いの考えていたことを時間をかけて親身になって話を聞き、解決を図ってくださいました。僕はその先生から相手の気持ちを考えることの大切さを教えてもらい、自分も同じように児童たちに教えていきたいと思い教師を志しました。

2 いつからどのような勉強を始めたか

3年の夏休み明けからゼミでの勉強会が始まりました。そのときから少しずつ勉強を始め、3年の冬から本格的に始めました。まず、自分の苦手な教科を中心にひたすら問題集を解きました。その後、過去問を繰り返しして解けない問題をなくせるように勉強をしました。

勉強をする上で大切だと感じたことはその自治体の傾向をつかむことです。自分の場合は石川県の勉強のために傾向を調べ、教育法規がよく出題されていることを知り重点的に勉強することができました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

自分が合格できた理由は仲間との協力だと思います。自分は3つの自治体を受け、面接練習を石川県と横浜市で行いました。どちらの練習でも厳しくお互いに指摘し合い、高め合うことで上達することができました。

模擬授業の練習でも友達と動画を取り合ったり、アドバイスをしたりすることで協力して練習しました。1人で練習していたら気付けないところでも友達とすることで気付くことができるので仲間との協力が大切だと思いました。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 高橋 向日葵

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

新潟県

高校生で自分の将来を考えて、安定した職業に就きたいと思い教師を志しました。

2 いつからどのような勉強を始めたか

教員採用試験の3ヶ月前から勉強を始めた。

毎日、自分が最大限集中して勉強できる2時間弱、効率よく勉強した。

新潟県の過去問、参考書を中心に勉強した。

自分の苦手とする範囲を抑え、それを中心に勉強していくことで、自分の苦手克服に努めた。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

確かに勉強することで自分自身の質力を付けていくことはとても大切なことだと思います。しかし、「運」を味方にすることも大切だと思います。当日試験に至るまでの日頃の行いや徳を積むことが、自信につながると思います。

この人のために合格したいと思える、「大切な存在」がいたことで頑張れました。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 高本 乃愛

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

＜合格自治体名＞石川県

＜教員を目指した時期＞小学校6年生

＜勉強を始めた時期＞本格的に始めたのは 2024 年 1 月から

2 いつからどのような勉強を始めたか

2024 年 1 月から本格的に勉強を始めました。私は最初に過去問から手を付けました。2017 年から問題傾向が変わったので、2023 から 2017 年の過去問を三周ほどしました。解いていく中で自分の苦手な分野が分かっていくのでそれは赤本と青本で補っていました。過去問を 3 周し終わった後は、赤本青本を 3 周しました。3 周して自分の回答率が低い問題をわかるまで何回も解きました。一日 7～10 時間ほど勉強していました。家では集中できないので、休日は図書館で勉強していました。場所を変えて勉強することはお勧めで、その分家はリラックスする場所と決め、メリハリをつけてました。解けていない問題はそのままにはせず、自分で調べたり、友達や、先生方に協力をいただき分からないを無くす努力をしました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

私は、毎日の積み重ねと、気持ちが大切だと思います。

自分のルールを決め、それを守らなかったら合格できないと自己暗示をかけてました。まあいっかと妥協をするとダメだと思います。気持ちの部分でほかの人に負けると思って勉強していたので、気持ちは行動に現れると思っているので少しの妥協は命取りだと感じました。講師でも教員にはなれますが、講師でもいいやと考えるのではなく、絶対現役合格するぞと思うことが大切だと思います。自分が後悔することはない！をモットーに努力することが合格につながるのかと思います。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 竹内 愛賀

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

私は、高校2年の時に教員を目指すようになりました。私自身子どもが好きであったため、教師の仕事に興味がありました。高校生になり進路を考えている際、小学生の時から好きだった英語が、小学校で教科化されることを知り、「英語を小学校で教えたい」という志を持つようになりました。大学生になり、学校ボランティアや教育実習で目の前の子どもたちとの関わりを通して、より教員になりたいという意志が強くなりました。

2 いつからどのような勉強を始めたか

私は3年後期の定期試験終了後から、教員採用試験の一次試験に向けて勉強を始めました。3月末にその模擬試験が行われることから、まずは専門教科（小学校全科）と教職教養に手を付けました。小学校全科の青本を2周し、かつ教職教養も一通り目を通したところで自信を持って模擬試験に臨みました。しかし、自分の努力が結果として実を結ばず、悔しい思いをしました。それをきっかけに、「採用試験に絶対に合格する」という気持ちに火が付きました。4月からは、大学の授業とアルバイトも並行しながら、1日4時間以上を週5日勉強し続けました。最終的には、全科青本2周、過去問（全科・教職一般）4周し、自信を持って一次試験に臨むことができました。

一次試験後は、すぐ二次試験対策に取り組みました。およそ50分の面接であったため、まずは質問の答えに一貫性を持つことを意識しました。自分の「教師観」「児童観」「学級観」の柱を考えた上で、過去問に取り組み、模擬面接で実践することを繰り返しました。時に試験官役を友達にお願いしながら、50分の集中力を保てるように練習を重ねました。始め友達との練習は、恥ずかしさがありました。しかし互いが試験突破に本気であることを理解してからは、「仲間の合格のために」、そこで気づいたこと、改善することをしっかり言葉で伝えられるようになりました。これを通して、互いに合格に向け、成長を感じながら自信を持つことにつながったと思います。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

私が合格できた理由は、全力で支えてくれた先生方と同じ志を持つ仲間が存在があったからだと思います。自分自身の教師観やクラス像を明確にするために、多くの先生方から丁寧なご指導とご助言をいただきました。特に二次試験対策では、多くの先生方が面接官役となり、私の面接指導をしていただいたことで、自分の教師観が明確になり教員になりたい意志を、言葉と表情で伝えることができるようになりました。

また、同じ志を持つ「仲間」の存在が何より私の支えになりました。試験勉強は、1人1人で行うものだと思われがちですが、友達の頑張る姿が、何より自分を奮い立たせる原動力になりました。特に、2号館8階のロビーでは分からない問題があった時、お互い自然と教え合ったり、不安な気持ちを共有して、最後は「一緒に絶対合格しよう」と励まし合っている姿は、今でも鮮明に覚えています。二次試験に向けて、面接の試験官役を友達にお願いしたり、模擬授業の練習も自主的に集まって行っていたグループもありました。私自身も、友達と目標や学習時間の共有をしたり、息抜きに楽しいことを考えたり、と仲間の存在があってこそ、長く大変で苦しい受験期を乗り越えることができたと思います。お互いが、お互いを刺激しあい、助け合い、励まし合ったことが、自分の夢を叶えることにつながりました。このような素敵な仲間に出会えて、また一緒に頑張ることができて、心から感謝しています。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 田中智世

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

- 合格自治体名

富山県

- 教員を目指した時期

選択肢としてあがった時期が中学生の時で、本格的に目指そうと思ったのは高校生の時。

2 いつからどのような勉強を始めたか

一番最初に考えたのは、できるだけ効率よく勉強したいということでした。

まず自分が受ける自治体の過去問や出題傾向を見て、十数年で出ていない部分を除き、多く出題されている問題から順にやっていき、その中で自分が苦手な教科や問題を特に取り組むようにしていました。

勉強を始めた時期については、もともと3年が始まった頃から簡単な勉強はしていましたが、本格的にやったのは3年の終盤からでした。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

自分は補欠で合格しているので、合格できた理由より落ちた原因のほうが思い当たるのですが、富山県に関して言えば4年次で受ける1次の学力試験は、合格者状況を見るにそこまで難しいものではないと見られます。

そうすると、重く見るべきなのは2次の面接・論述試験だと思います。

自分はここで躓きました。練習と本番は別物で、面接官によっても変わってくるので、どんなに大変な状況になっても明るくしっかり答えられるように練習した方がいいです。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 谷口 空

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

自治体：富山県

私が教員を志したきっかけは、小学校の恩師との出会いと高校の挫折・失敗体験がある。まず一つ目の恩師との出会いについては、その先生は人の心の中にある思いや願いをくみ取るのが上手で、私たちのことを心から信用信頼してくれた。その教師の一言が私にとって、大きく変化したのである。教師は一言で人を変えることができる、成長させることができる。

私はあの教師のように誰かを支え、変えるきっかけをつくりたいと思い教師を目指そうと思った。

2 いつからどのような勉強を始めたか

三年の春休みから勉強を始めた。

最初は教職教養を徹底的に行った、理由としては全く知らないからである。

小学校前科は過去の記憶があったためある程度解けるが、教職教養はかなり専門的な分野のため早めにやっておくのが一番だと考えた。

間に教育実習があるため、そこで授業の準備をしながら、小学校前科を思い出すということをやっていた。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

いろんな体験をしていたのが大きいと思う。

ボランティア活動や山登り、大学生活の仲間との関わり、先生方との関わり、そして自分自身の大学までの生涯が言葉として表せたのが大きいのではないかな。

いろんな冒険をして、視野や価値観が広がったからこそ、教師という職に対して、誇りを持ち、イメージがついたのではないかと考える。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 田巻 真帆

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）
新潟県、高校３年生、大学３年生の２月半ば

2 いつからどのような勉強を始めたか

大学３年生の２月半ばに青本を始めました。３月から本腰を入れて青本を中心に苦手意識のある数学の問題を解きました。集中が切れたら国語をしていました。４月からは教職教養に力を入れて、赤本を読む時間を増やしました。バスに乗っている間や講義の待ち時間、夜寝る前など少しの時間でも教職の赤本を読むようにしていました。５月の教育実習に入ってからでは体力や時間の問題で赤本を読む程度しかできませんでした。一次試験が全て終わるまでは全科や教職教養の過去問を解くようにしていました。過去問は数学を３周、国語と教職教養は２周行いました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

自分が合格できた理由は、１次試験に関してはモチベーションや勉強への取り組み方で、２次試験に関しては軸を持てたことだと考えます。私は短期集中型であるため、範囲が広すぎる教採は途方もなく感じていました。しかし、勉強の質と量について整理し、自分に合った勉強スタイルでこなすことで、筆記試験に挑むことができました。また、モチベーションについては、周りの人と比べないことを大切にしていました。

２次試験の面接については、自身の教育観や学級経営、授業観と自治体の教育指針を照らし合わせながら、ポイントを絞って練習しました。また、私は金沢でのボランティア活動や小学校での学習補助を通して学んだことを交えながら、自分が教員になったらどんな活動をしたいか、どんな授業をしたいか自分の言葉で伝えました。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 中郷 摩耶

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

石川県、大学３年生の頃教員になろうと決意、３年の春休みに入ってから（２月頃）勉強を本格的に始めました。

2 いつからどのような勉強を始めたか

- ・春休みは学校で購入した問題集を４周ほどしました。苦手な科目や単元はそれ以上解きました。
- ・教育実習が終わってからは石川県の過去問３年分を反復して解いたり、理科の実験練習をしたりといった実践的な対策をしました。近所のプールに２回ほど１時間近く泳ぐ練習にも行きました。筆記試験が終わるまでは面接や模擬授業にはあまり時間を割きませんでした。
- ・一次試験が終わってから、模擬授業と面接練習の予定を詰めました。いろんな先生にみてもらうことをお勧めします。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

- ・学校や教育実習先の先生、師範塾が開いてくださった理科の実験や面接練習、模擬授業練習に休まず参加したから。
- ・面接官の前でしくじっても気にせず堂々としていたから。また、話すときも笑顔を忘れず常にニコニコしていたからだと思います。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 寺田 陽

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

合格自治体：石川県、横浜市

教員を目指した時期：高校２年生の冬くらい

勉強を始めた時期：大学３年生の１月末くらい

2 いつからどのような勉強を始めたか

- ・大学３年生の１月末くらいから本格的に始めた
 - ・まずは青本を１周する。（分からないところは赤本などで調べる。分からないままにしない。）
 - ・青本を３周くらいする。（間違えた問題にはマークをつけ、間違えたところを中心に解く。）
 - ・青本に飽きてきたら、各自治体の過去問をする。（２、３周ほど）
- ４年生になってから、各自治体の受験のスケジュールと照らし合わせながら、各自治体の出題傾向に沿って対策をする。
- ・石川県：時事問題→２日前くらいに YouTube で対策する。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

勉強しはじめの時は、１日８時間以上勉強する習慣がなかったので、勉強できるか不安を感じていました。でも、教師に絶対なるという強い意志と、共に頑張る仲間と一緒に勉強すれば、すぐに勉強する習慣ができました。あとは、集中して勉強できる場所を２、３カ所見つけておくと、学校がない日でも勉強する習慣ができました。毎日、勉強するだけの生活はつらいので、友達と遊んだり、息抜きにバイトに行ったりなどしてリフレッシュする時間もとても大切だと思います。後は、４年生に入ると出願や教育実習などで勉強に使える時間も必然的に減ってくるので、今のうちから計画を立てることをおすすめします。特に、３年生の春休みに勉強に力をいれると良いと思います。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 寺林 美結

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

合格した自治体:石川県

教員を目指した時期:大学 1 年生～3 年生の 11 月、それからしばらく普通就職と迷い教採勉強と併用して就活を進める、4 年の 4 月後半再び教員になりたいと心に決める。

勉強を始めた時期:1 年生～2 年生→1 日 1 ページ程度学校で購入した青い本を進める。

3 年生→青い本を進める

4 年生→本格的に勉強を始める（過去問を解くなど）

2 いつからどのような勉強を始めたか

大学 1 年生から 2 年生の頃は学校で購入した青い本をなんとなく、行う程度で進めていました。3 年生の 11 月からは少し勉強量を増やし、4 年生の 4 月頃、本格的に勉強を始めました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

私が合格できた理由は、まずは筆記の勉強に力を入れていたことです。しかし、筆記の勉強にばかり力を入れてしまい、2 次試験の勉強がおろそかになってしまいました。2 次試験の配点は 1 次試験と同等の点数であるため、どの試験もおろそかにせず、勉強を行うことが、合格につながると感じました。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 中平 夏葵

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

合格自治体名は富山県。教師を目指した時期は、教育系の大学に行こうと思ったのは高校2年生の終わりごろで、本格的に教師になろうと思うようになった時期は大学3年生の教採の結果を知った頃。勉強を始めた時期：(3年次)3年の4月頃～7月、(今年時)12月～4年の8月

2 いつからどのような勉強を始めたか

3年次受験の時は、富山県の小学校全科と教職・一般教養の過去問を購入した。問題出題の傾向と問題の形式を知るために、5年分を重点的に解いた。また、先生に教えて頂き、富山県庁に行って過去問を入手した。集団討論の対策は、当時4年生の先輩と週1回の頻度で練習していた。先輩方が教育実習の時には、3年生だけで話し、撮影したのを見て外見的な弱点(姿勢や、討論の内容をメモする姿、あいづちなど)を改善するよう心掛けた。

4年時受験の時、まず筆記対策では、赤本と青本をそれぞれ2周した。苦手な科目は、分からない問題は友達に聞き、調べた。また、高校受験時に使う「新研究」も使用した。忘れている基礎知識などを見直すことができて便利だった。そこから、過去問を解くようにした。小論文対策は、過去問を7年分くらい解いた。富山県は、いじめや不登校児童などでの対応方法や保護者対応の方法を問われることが多いので、生徒指導提要を読んでから解くようにした。面接では、聞かれそうなことに対する自分の考えをまとめた。そのままでは抽象的だったので、教育実習時にも面接の内容を常に考えるようにして具体的なものにしていっていった。解答の内容は10回くらい修正・加筆した。練習では、先生と実際に面接、友人の面接の内容を見て勉強、自分の姿を撮影し、直したい癖を受験日直前まで直す努力をした。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

- ・同じ自治体を目指す仲間、先輩と一緒に協力して勉強・試験対策をしていたから。
- ・4年時には、先輩方から話を聞き、情報収集ができていたから。
- ・3年次に一度不合格を経験しているから。
- ・富山県担当の先生方が、懇切丁寧な講義、面接対策をしてくださっていたから。
- ・ゼミ担の先生がアドバイスをしてくださっていたから。
- ・2号館8階の学習室が、士気の高い仲間とともに勉強できる環境だったから。
- ・春休み時に石川県立図書館で友人と勉強していたから。グループ学習室などが特に良かった。
- ・規則正しい生活を心がけていたから。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 西野 祐生

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

合格自治体

富山県

教員を目指した時期

中学校で部活動の顧問に出会い、自分も教員としての立場で子どもたちに寄り添っていきたいと感じた。

勉強を始めた時期

本格的に勉強を始めたのは、3年次に受けた4年生の合格体験記の授業後でした。

2 いつからどのような勉強を始めたか

3年後期に、受験する自治体（富山県、石川県）の過去問を繰り返し取り組んだ。1週目で分からなかった問題は、すぐに飛ばして取りかかる問題を増やすよう量を重視した。分からなかった問題や解くのに時間がかかってしまった問題は、赤本や青本、解説書などを活用し、2週目までには解くことができるよう工夫した。家で集中できない場合は図書館や学校の空きスペースで勉強し、自分に適した勉強スペースを確保した。3年次に受験ができたので心の余裕が少し生まれ、4年次での受験では、適度な緊張感をもって臨むことができた。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

合格できた理由として、過去問により多く時間を割いたことがその自治体の問題傾向やクセなどを捉えることができ、点数を取ることができたのではないかと感じている。また、分からなかった、難しいと思った問題に時間を使うよりも、自分の得意な科目を伸ばすことを意識したことで勉強が苦に感じずに継続できたのではないと思う。1次の集団討論では、進んで話題を振り発言が比較的少ない人により参加してもらえるように投げかけを行った。また、立場を変えて考え、別の視点での意見をもつことで討論が重複しないよう工夫した。その際は時間をかけすぎないよう端的に言語化した。面接では、硬くなり過ぎずに自分の伝えたいことをしっかり伝えることを意識した。以上のことが自分が合格できた理由だと考える。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 野村 美由紀

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

富山県教員採用試験に合格。

小学校教員を目指した時期は大学入学後。

勉強を始めたのは大学3年の4月。

2 いつからどのような勉強を始めたか

大学3年の4月から一次試験の勉強を始めた。

苦手科目を中心に、毎日最低3時間は勉強していた。

一次試験は3年次受験だったため、集団討論の練習は4年生の先輩方と一緒にさせてもらっていた。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

私は大学受験の失敗を戒めとして、試験勉強を入念に行った。目の前の試験に対して努力し続けたことが合格できた理由だと思う。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 藤 見洋子

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

石川県

高校3年生

2 いつからどのような勉強を始めたか

3年生受験をしたため受験前時間がある時は、赤本や青本を見るようにした。

教職センターの過去問を解いた。

いしかわ師範塾には毎回休まず出席した。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

面接練習をしてくださる先生がいた。

いしかわ師範塾に休まず出席した。

3年生受験に挑戦した。

ボランティア活動等、その時の自分のできることをみつけて行動した。

教育実習で学ぶ姿勢を持ち続けた。（教育実習後も模擬授業や面接練習でお世話になった）

子どもたちと関わる機会を大切にした。

自分自身の強みを探した。（中学高校の部活動経験等）

大学生活真面目にがんばった。

教員になりたいと強い思いをもっていた。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 細川 侑真

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

合格自治体 新潟県、富山県

教員を目指した時期 中学校 1 年生

2 いつからどのような勉強を始めたか

春休み頃に教職教養と高校の頃のチャートや参考書を解いて、基礎や基本に定着を図りました。また、この頃は特に教職教養に力を入れて取り組みました。

そして、教育実習後に受ける自治体の過去問を解きました。

1 次試験終了後から、面接練習に本腰を入れて取り組み始めました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

基礎・基本に定着や高校までに学んできたことの思い出しの作業をしっかりとできたためだと思います。また、完全に新しい知識の部分である、教職教養に力を入れたからだと思います。

あとは面接練習を行ったこと、そして面接を今までに何度か経験していたことが大きいかと個人的には思います。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 干場 理央

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

《合格した自治体》

- ・新潟県

《教員を目指した時期》

- ・私は小学校高学年の頃から教師に憧れており、当時から「将来は児童が楽しいと思えるような授業を作れる教師になりたい」と強く思っていました。

2 いつからどのような勉強を始めたか

- ・私が教員採用試験の勉強自体を始めたのは、大学3年生の前期です。1日2～3時間を目標に取り組んでいました。3年生後期や4年生になるにつれ、1日の勉強量を増やし、最終的に1日7時間程度取り組んでいました。勉強の内容に関しては、3年前期・後期は小学校全科に力を入れ、4年生になると教職・一般教養等を中心に学習しました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

- ・私が新潟県の教員採用試験に合格できた理由として、先生方や仲間たちが応援してくれたことが大きいと考えています。私は第1志望が石川県で、1つの教員採用試験に集中して取り組みたいと考えており、一身上の都合もあったので石川県のみ受験しました。結果は不合格でとてもショックでした。1日に何時間も勉強をして備えてきたはずだったのに合格できなかったことが悔しくて、「自分はきっと教師には向いていないんだ」と落ち込んでいました。数日後、とある先生から新潟県の秋季募集がかかったことを教えていただきました。この時点ではもう来年から教師になることを諦め、受験する気などありませんでした。今考えると努力が報われず、悲観的になってしまっていたように感じます。しかし、先生方からの後押しや友人たちからの支えもあり、もう一度頑張ってみようと思い、新潟県を受験しました。なので、私が新潟県教員採用試験に合格できたのは先生方からの後押しや友人たちの支えがとても大きかったと感じています。生徒のことを本気で思ってくれる先生方と他人の私のことを自分の事のように考え、支え応援してくれた素晴らしい友人たちに出会えてよかったと心から思います。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 本間 伊緒梨

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

合格自治体名：新潟県

教員を目指した時期：中3～高2

勉強を始めた時期：大学3年生の冬休み頃

2 いつからどのような勉強を始めたか

3年生の1月頃から勉強を始めた。

1次試験対策では主に、問題集・参考書・過去問を使って勉強した。

予想される出題範囲や傾向を調べて、その部分を繰り返し勉強した。苦手なところや分からないところは、先生や友人に聞きながら勉強した。大体、誰かと近くの図書館か学校で勉強していた。また、過去問を解くことで現時点での得点率を確認していた。

2次試験対策は、1次試験終了後（7月7日）から始めた。

2次試験1、2週間前の先生との本番を想定した面接練習に向けて、過去問を使って自己分析をした。1人でじっくり考えたり先生や友人と話し合ったりしながらして、自分の考えをかためていった。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

【1次試験】

- ・問題集をひたすら解いたから。（そのページの問題を全問正解するまで繰り返し）
- ・分からないところや苦手なところはすぐに先生か友人に聞いて、そのままにしないようにしたから。
- ・試験当日は、落ち着いて集中力を高めたり休憩時間もギリギリまで参考書を見ていたりして、1問でも多く解けるように努めたから。

【2次試験】

- ・時間をかけて自分が納得いくまで自己分析できたから。
- ・先生と本番を想定とした面接練習ができたから。
- ・試験当日では、絶対に新潟県の教員になりたいという思いを全力で伝えたから。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 前田 峻佑

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

（合格自治体） 石川県・富山県・横浜市

（教員を目指した時期） 中学2年生

（勉強を始めた時期） 2月から少しずつ勉強を行い出したが、本腰を入れて勉強を行い出したのは、3月ごろから

2 いつからどのような勉強を始めたか

3月ごろから、学校にできるかぎり行くようにし、行けない時は図書館などを活用し、勉強を行っていた。勉強の内容としては、最初は青本や赤本を見て勉強していたが、石川県の過去問題集をひたすら周回し、わからないところは青本や赤本を活用しおこなっていた。私は石川県・富山県・横浜市を受験したのだが3つの自治体全ての過去問題集をできるかぎり周回し、できるようになるまでおこなった。だいたい3つの自治体の過去問は3～4周はしたと思う。最初は自分が自信のなかった小学校全科を行っていた。4月ごろから教職教養を行い出した。5月20日から実習が始まるのでそれまでにはある程度できるように努力した。6月からは苦手分野をなくすためにひたすら過去問をおこなっていた。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

筆記試験、面接試験の練習を周りの仲間たちと行ったのが合格できた要因でもあると思う。周りと鼓舞しながら、学校に来て勉強をする口実を作り自分一人だけでなくみんなで勉強や練習をすることが大切だと感じた。

複数受験は、面接試験や筆記試験など移動などが大変で体力的にしんどい部分はあるが、確実に力がつく。そして、何事にも場数を踏むことの大切さを知った。

先生方に頼り、練習などに積極的に参加することも大切である。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 前田 優美花

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

- ・ 静岡市教員採用試験を受験し合格
- ・ 小学 3 年生の頃から、教員という職業に憧れをもつようになった。そして、中学 1 年生の時の担任との出会いがきっかけで教員を強く志すようになった。「その恩師のようにになりたい」という当時の思いが現在も原動力となっている。

2 いつからどのような勉強を始めたか

教員採用試験が早期化したことで、大学 3 年生でも受験することが可能になった。それをきっかけに、大学 2 年生の春休みから採用試験勉強を始めた。始めは、基礎問題に取り組んだ。ある程度、点数が取れるようになった状態で試験に挑んだが、不合格という結果だった。不合格となった原因を考えると、知識が曖昧となっていたり勉強量が不十分であったりしたため、そこからは、それらを解消できるように採用試験勉強に取り組んだ。わからない問題はできるようにする、何度も繰り返し問題を解き自信をつけるということを特に意識していた。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

徹底的に採用試験対策を行ったこと。

筆記試験対策では、苦手科目をコツコツと取り組んだことが良かった。問題集は、自分に合ったものを選び、繰り返し取り組むことで、基礎の定着を図った。

面接試験対策では、これまでの経験で得た学びを発揮できたことが合格に繋がった。ボランティア活動やアルバイトなどでたくさん子どもたちと関わってきたことが、面接などの場面で自分の強みとなった。採用試験期間だけではなく、自分自身の成長のためにたくさんの経験を積んでおくことが大切だと感じた。

全体を通して、仲間との支え合いが大切だと考える。面接練習を客観的に見てくれる人、辛い時に手を差し伸べてくれる人、勉強を教えてくれる人など一人では乗り越えることが難しい時に、支えてくれる仲間の存在が大きかった。

私は、子どもを勇気づける教員を目指している。恩師に憧れているのはもちろんだが、これまでの経験から学んだ、私だからこそ伝えられるものを子どもたちに与えることで、自分なりの教育観、指導観を育んでいきたい。そして、これまで出会ってきた尊敬する先生方のように、常に学び続け、目の前の子どもの成長と向き合いながら自分自身も成長し続ける教員を目指す。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 松原 大翔

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

富山県

小学校のころの担任の先生に憧れて

2 いつからどのような勉強を始めたか

半年前から少しずつ勉強を始めて、最後の 1 ヶ月は毎日過去問 2 年分をとき、（23.24 年、次の日 24.25 年）過去問 5 年分を全て 95%解けることを目標にして努力した。

勉強だけでなく、地域の活動に参加し、（消防団や地域の納涼祭実行委員、獅子舞保存会）地元の魅力や、特徴を知る活動を行なった。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

自分が合格できた理由は 1 日の勉強時間を決めるのではなく、目標をたててそれに対して毎日納得がいくまで行い、自分の勉強ができる空間をつくることができたからだと思う。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 丸山 のぞみ

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

新潟県、石川県

小学6年生

3年生の秋に手を付け、2月に本腰を入れた

2 いつからどのような勉強を始めたか

秋は今までの国数英を思い出すために高校受験に向けて取り組んでいた、好きな参考書をやっていました。

2月頃から小学校全科に取り組み始め、できる日は1日8時間ほどやっていました。集中力が続かないほうなので、同じ新潟県受験者と県立図書館で一緒に勉強したり、アルバイト前にフードコートで人の目にさらされながら取り組んだり、怠けられない環境を設定して学習を進めました。

3月からは過去問に取り組み、私は教職教養が苦手だったので、得意な子に覚えるコツを聞きながら叩き込みました。

実習期間は試験勉強は1つもできませんでしたが、6月半ばから七夕までは研究室に閉じこもり、ひたすら証明を解いていました。

筆記試験が終わってからは苦手な模擬・面接対策をひたすら繰り返しました。

まずは石川県の模擬・面接が控えていたので、区分Dだったため、他の人が石川の筆記に向かって勉強している中、早めに先生を捕まえて、練習に付き合ってもらいました。模擬授業は単調であることが課題であったため、自分の殻を破り、声を出すところから克服していきました。

面接は、石川県の受験に向けて自分の軸を固めたことで、新潟県の練習を始める頃には言いたいことがまとまっており、場面指導についての型を覚えたり、50分間という時間に慣れたりするくらいで本番に臨みました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

筆記試験について、新潟県は国数という自分の得意教科に絞られていたため、楽しく勉強に取り組むことが出来たことが良かったと思います。

苦手な模擬・面接は、苦手意識を持っていたからこそ誰よりも多く練習をしようという意識を持って練習を重ねたことや、先生方や友だちが練習に付き合ってくれたり、アドバイスをしてくれたりしたこと、そのおかげで自信につながったことが良かったと思います。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 山崎 あみ

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

合格自治体：石川県

教員を目指した時期：高校3年生の進路決定の時期

勉強を始めた時期：大学2年の冬（3月中旬ごろ）

2 いつからどのような勉強を始めたか

3年次受験がいくつかの自治体で発表され始めた、大学2年の3月中旬から本格的に教員採用試験対策の勉強を始めました。石川県の3年次受験は筆記試験及び実技試験のため、試験日まではその対策を行いました。

勉強を始めてから試験日まで約4か月しかなかったため、効率的に勉強を行うことを意識しました。そのため、配点や過去問などの分析を行い、専門教養（小学校全科）の配点が多いことが分かったため、ほとんどの時間を小学校全科の勉強時間にあてました。参考書や問題集は時事通信社の赤本と青本を活用し、試験前1か月は過去問に取り組みました。実技試験対策に関しては、理科実験の練習を藤井先生に協力してもらい、簡単な操作の確認をさせていただきました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

受験を乗り越えて、危機感を持つこと、友だちと高め合う環境をつくることが大切だと考えました。

試験日まで時間があるからと言って、毎日の勉強をおろそかにしたり、油断したりしていると、試験日までにやらなければいけないところまで勉強をすることができません。特に、4年次に筆記試験を行う場合には、4年生になってすぐに教育実習があるため、勉強の時間は取れません。そのため、早めに教員採用試験に対する危機感を持って勉強に取り掛かることが大切だと感じました。

また、私は一人で勉強するのではなく、友だちと一緒に勉強することでモチベーションを高めたり、教え合うことで理解を深めたりしました。その環境があったおかげで、試験日まで試験勉強を続けることができ、合格することができました。私は、友人と一緒にできる環境があっていたけど、それぞれ自分に合った勉強環境は異なるため、自分に合った勉強方法で乗り越えてほしいです。

最後に、3年次受験に関して、3年次受験を迷っている人はぜひチャレンジしてほしいです。自分の現状を把握すること、試験の雰囲気を感じておくこと、試験に合格したときには、4年次の試験の負担が減ることなどメリットしかないと思います。ぜひチャレンジしてみてください。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 和田 珠希

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期、勉強を始めた時期等）

私は東京都の教員採用試験に合格することができました。

教員を目指したのは、なんととても遅く 4 年生の教育実習中でした。それまでは教員になりたいと思っておらず、免許の取得だけを考えていました。しかし教育実習の中で、学校現場で働く先生方から学び、児童たちと過ごす毎日がとても楽しく有意義で、子どもたちが私の授業で楽しいと言ってくれた喜びがずっと忘れられませんでした。この喜びをまた経験したい、子どもたちが一喜一憂しながら成長する姿をもっと見てみたいと思うようになり、教員採用試験を受けることを決めました。

2 いつからどのような勉強を始めたか

教育実習と平行しながら勉強していました。試験まで日数がなかったので、東京都の過去問を数年分何度も解き、出題傾向を分析して範囲を絞り集中的にその箇所を勉強していました。私はとにかく時間がなかったので山を張って勉強していましたが、本来はテキストを満遍なく解いて何周もする勉強法がいいと思います。論文問題は、内容よりも時間内に指定された字数を書くことに重きをおいて練習していました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

正直、合格できた理由はよくわかりません。あまり自信がなかったので発表まで不安な日々を過ごしていました。ですが、今から振り返ると面接が一番よかったのかなと思います。練習やシュミレーションではできていたものの、本番になると緊張や不安などから失敗してしまう例はよくあると思うのですが、私にはそれがなかったです。面接官の方の顔をしっかり見て、声を張って、表情を付けることを常に意識しながら誠心誠意私の考えや思いを伝えました。そこを評価して頂けたのかと思います。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 西村 鳳泉

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

- ・合格学校名

名進研小学校

- ・教員を目指した時期

高校三年の秋頃

2 いつからどのような勉強を始めたか

試験内容、日程の発表が試験当日の 2 週間前だったので、それ以前からも小学校全科、教職教養、一般教養などの勉強は少ししていましたが、受験対策を行い始めたのは試験当日の 2 週間前からになります。

試験内容は学力審査と模擬授業だったので、学力審査に関しては引き続き小学校全科などを勉強し、模擬授業に関しては的場先生と山口先生からご多忙の中、熱心にご指導いただきました。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

私が合格できた理由は、本当に運が良かったというほかないと思います。たまたま採用試験の案内が目にとまったこと、ご多忙にもかかわらず全力で応援してくれる先生方に恵まれたことなど、人や環境に恵まれたおかげで合格できたと思っています。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 春日 結翔

1 はじめに（合格自治体名、教員を目指した時期等）

合格先 名進研小学校

教員を目指した時期 高校生

教員になろうとしたきっかけは、小学校・中学校の恩師に憧れていたのと、子どもが好きで、成長するところを見届けたいと思ったから。

2 いつからどのような勉強を始めたか

周りと比べて勉強を始めたのがかなり遅く、本格的に始めたのは 3 年の春休みからだった。

普段から忙しく、まとまった勉強時間の確保がなかなか出来なかったのでバイトの休憩中に赤本を読んだり、寝る前のわずかな時間で過去問を解いたりして少ない時間でも効率よく勉強することを意識した。

3 むすびに（自分が考える「合格できた理由」）

自分が合格できた理由は、採用試験に合格するまでに先生方や友人などのサポートが沢山あったからこそだと考えた。

面接練習や模擬授業の練習も丁寧にしてくれたのも大きかった。

反省点が2つあって、1 つ目が教育実習中に無理しすぎて倒れたことがあったので、メリハリと余裕のある計画を立てて勉強したほうがいいと思った。

2 つ目が、自分は師範塾に行かなかったため、面接練習や模擬授業練習するときも周りと差があり、練習時に苦労したので教員になる人は師範塾に行っておいた方がいいと思った。

「教員採用試験合格体験記」

氏名 石橋 飛佳

1 はじめに

合格自治体：新潟県

教師を目指した時期：小学校高学年の頃から

2 いつからどのような勉強を始めたか

学科試験

冬ごろから青本赤本などを使って、少しずつ勉強する癖をつけた。

→内容や量というより、できるときにできる時間だけ行った。

2月ごろから過去問をとにかく解いた

→それまではどこの単元をやっても不安で、こんなのでるのかなと不安になることもあったが、過去問をとにかく解くことで自治体の傾向を完全に掴む事ができた。

出来なかった問題は徹底して解けるようにし、何度も繰り返し解き復習した。

面接試験

一次が終わってから二週間ほどし、新潟県の面接の過去問、東京アカデミーの面接の過去問についての受け答えを考えた。

→自分はとにかくメンタルが弱かったので、不安な時は先生方にすぐ相談しに行った。面接は必ず正解があるわけではないので“私らしさ”をモットーに受け答えを考えた。

先生方と面接練習をする

→様々な先生と面接練習を行わせていただいた。50分実際に行ったのは一回だけだが、それ以外にも短い時間で面接練習を行わせていただき、出入りや受け答えの難しさをあらためて感じた。

3 むすびに

学科はとにかく過去問で傾向を掴んで対策をすれば新潟県は大丈夫と思う。

面接が大切なのは前々から知っていたので、とにかく笑顔と明るさが全面に出るように日々練習をした。自分に大丈夫、大丈夫と言い聞かせて、前向きに取り組んだ。

面接は対話、会話するだけと思い、むしろ楽しんでこようというくらいの気持ちで挑んだ。

編集後記

この度、本科に在籍する現役の3・4年生35名の全国各自治体の教員採用試験合格者の皆さんから原稿を頂戴しました。どの方々の原稿からも、自分が努力してきた経過を素直に振り返ろうとする「素直な心」を感じました。そして、一人一人の日々の「頑張りの足跡」があったのだということも確認することが出来ました。『合格』の二文字の裏には、それぞれの並々ならぬ努力があったということを、本書を通じ改めて学ぶことが出来ます。

このたび、初めて学科の合格者の体験記をまとめることが出来ました。各人の努力が次の世代の皆さんに引き継がれていく事を強く願います。

合格者の皆さんは、4月からは晴れて『先生』です。これからも、「内省の心」を持って、「小さな努力」を積み重ねられる先生になってください。子供たちの夢の実現に向け、この地から大きく羽ばたいていってください。合格、本当におめでとうございます。

本書の刊行並びにホームページへの掲載にあたり、多くの皆様からご支援を賜りました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。(Y)

金沢学院大学教育学部教育学科

『令和6年度 教員採用試験 合格体験記』

発行日 令和7年1月17日(金)

発行者 金沢学院大学教育学部教育学科 (〒920-1392 石川県金沢市末町10)

※本書記事、図版の無断転載・複製は固くお断りします。